Operation Raleigh News

Operation Raleigh DENSO

NO.32

昭和62年(1987) 6月10日(水)
毎月1回発行

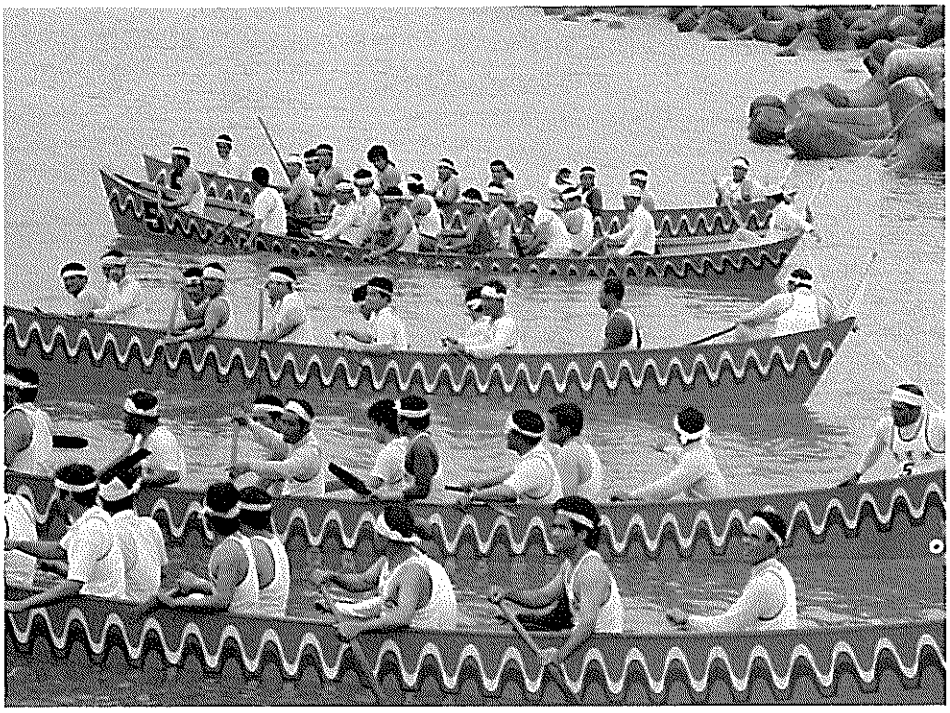
●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会
〒104 東京都中央区築地1−7−10 築地オーミビル502号
電話 東京(03)544−7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装㈱のご協力で制作されたものです。

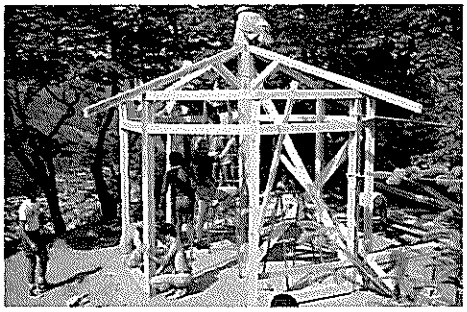
各地に花咲く国際交流の大輪

北海道プログラムの知床半島縦走や本州プログラムの木曽川いかだ下り、大峰山奥駆修業などの冒険的なプロジェクトが無事終了し、沖縄プログラムのサバニによる西表島〜沖縄本島（糸満）の500km黒潮冒険航海を除いて、各プログラムとも地域との交流、奉仕活動に重点が移っています。その成果はめざましいものがあり、国境を越えたさまざまな友情、心のこもった国際交流の花が各地で咲いています。

▲沖縄グループ：サバニの漕船訓練



▲沖縄グループ：サバニ組は伊良部島のハーリーに参加



▲本州Aグループ：展望台づくり

▲本州Aグループ：羊毛刈りの奉仕

▲北海道グループ：羅臼ビジターセンター内展示室で

記録碑・花壇づくりに取り組む
雪も消えて羅臼に遅い春

好天に恵まれ、ベンチャラーたちの活躍続く

北海道プログラム

知床半島縦走に成功後、北海道プログラムは班編成変えを行ない、５月初旬からはホームステイでの漁業体験、公園の花壇づくり、登山道道標づくり、記録碑づくりなど羅臼町を拠点に活動した。６月には知床横断登山道の整備（ウトロ～硫黄岳～羅臼岳）が主要プロジェクトとして控えている。

大成功の知床縦走 ホームステイや奉仕も

半島縦走隊は４月28日午前11時20分全員無事に岬に到着。16日間で知床半島の縦走を終了。28日は岬泊りで、29日船で羅臼に帰還。岬近くの文吉湾まで他のベンチャラーたちに迎えられ、最高の気分でした。

縦走自体は天候に恵まれ、ほとんど予定通りに日程を消化しました。縦走隊９名中、３名は僕を含む日本人ガイド、ベンチャラー６名中、３名は全行程縦走、３名は途中キャンプ７で交代。そのうち１名はケガのため途中で交代し、後半はかなり変則的なメンバーになりました。

この縦走期間中、他のベンチャラーもサポートチームとして全員２回山に入り、近くのピークに登りました。全体的にみてもかなりの成功を収めることができたと思います。

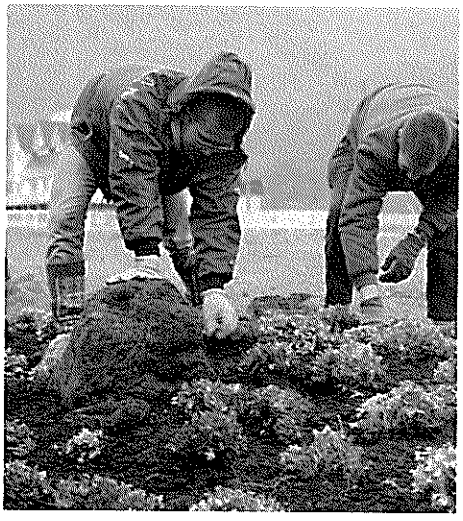
ただしこの縦走中、自分の能力を完全に生かしきれなかったベンチャラーもいたことは確かです。これから運営方針でも、かなり議論が交されるでしょう。（以上４月29日）

今はホームステイの真最中でベースキャンプには10人前後しか残っていません。ホームステイの内容にはかなり幅があり、漁師の番屋に入ったり、食堂で皿洗いをしたりです。

他の活動では記録碑づくりと花壇づくりが同時進行で進んでいます。ホームステイは５月24日にすべて終わり、次の焼跡調査と交流プログラムに入る予定です。知床縦走が終わってそろそろ20日、ベンチャラーのなかには刺激の少ない毎日にボツボツ不満も出始めています。そにサブリーダーは自分達の の話をして、ＯＲとはどんな 説明しているのですが……。

羅臼にいるのも、もう１ り。なるべく多くのベンチャ

▲記録碑づくりに精を出すベンチャラーたち（羅臼町）



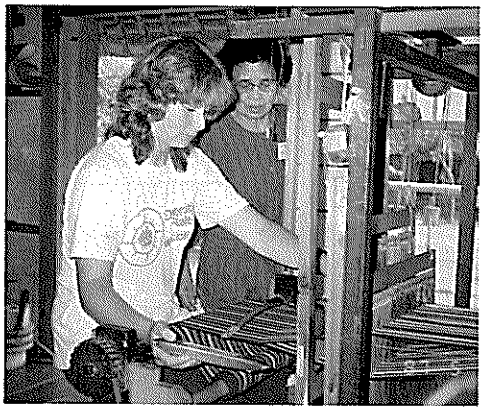
▲公園の花壇づくり

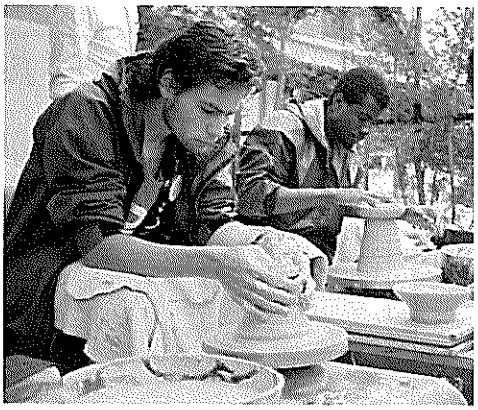
▲雨の中でのジンギスカンパーティー

なるべく長期間山に入ってい ように、今スタッフはミーテ の毎日です。羅臼の町は雪も 遅い春がやっとやってきまし 月の末には、お花見ができる 話で、みんな楽しみにしてい

（5月16日／堀内一秀＝北海道プロ ブリーダー）

▲足助署の依頼で―日婦人警官に


▲伝統的なはた織りを体験


▲難しいロクロにも挑戦

すばらしい足助での体験

異文化超えた友情芽生える

本州Ａグループは足助町で３週間にわたり、日本の伝統文化を体験し同町の人々とのふれあいを深めた。また、５月14日には日本電装本社、西尾製作所、トヨタ自動車堤工場を見学。日本電装本社ではその日誕生日のベンチャラー、アニー(英)にバースデーケーキが用意された。

Ｂグループは大峰・高野プロジェクトを終え、東海自然歩道を三重・岐阜・愛知・静岡の順に歩き、途中さまざまな交流会に参加した。５月21日には日本電装本社と西尾製作所を訪問。日本の最新工業技術をじかに見聞する有意義な一日となった。

▲写真はいずれも日本電装本社で

青年たちの自主性尊重

４月25日いかだ下りの終点、治水神社での木曽三川治水百周年記念事業に参加した本州Ａグループはつぎのプロジェクト地である三州足助まで60kmを４日間で歩きました。ベンチャラーたちは、いかだ下りの途中で自分たちでリーダーシップをとることを決め、それによって全員に積極性がでてきました。ベンチャラーに自主性をもたせ、リーダーシップを育てることがＯＲの最重要課題のひとつですから、大変うれしいことです。そのために、多少の計画変更はやむをえないと思います。彼らは歩くだけでなく、その過程でいろいろな文化にふれてみたいというので観光旅行にならない範囲で、できるだけ自由をもたせています。

グループ内の運営はリーダーを先頭として、その下に食事、道具、キャンプサイト、カルチャー、移動、通訳の６人の幹部がいて、彼らがそれぞれのセクションにおいて全ベンチャラーに対して責任をもつことになっています。ベンチャラー自身が考え出した組織であり、その機能は予想以上にすばらしいものになっています。Ａグループは足助で３週間にわたって、伝統工芸や武道、禅などを学びます。（以上５月２日）

５月１日から３週間の足助でのプロジェクトを終え、再び東海自然歩道を歩き始めました。ベンチャラーたちは口を揃えて足助での生活はすばらしかったといっています。伝統工芸修業、展望台建設、座禅、剣道、弓道などを通じて、多くの人々と出合い、多くの異文化と接したベンチャラーたちは、そのなかでかなり、もがき苦しんだことでしょう。日本式の過密スケジュール、マスコミ取材など彼らを精神的につかれさせたこともいろいろありました。また、日本人ベンチャラーの集団重視や日本式礼儀作法と外国人ベンチャラーの個人主義との対立もありました。そしてベンチャラー間で、お互いの接点を見い出すべく数々の模索が行なわれました。そしてそこに妥協が生まれ、人間と人間、文化と文化の摩擦は徐々に国際間の理解へと発展していきました。足助での経験は、あまりにも多くの課題を与え、彼ら

▲ベンチャラーたちが建設して足助町に寄贈した展望台

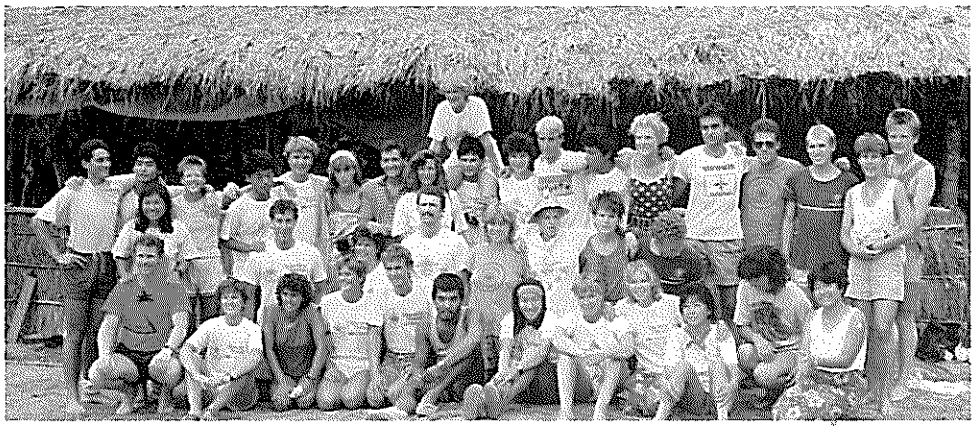
に方向性を見失なわせたかに見えますが、彼らのなかでは着実に相互理解が深まっています。僕がオーストラリアで得た最大のものは友情でした。日本文化を外国人ベンチャラーに理解させることも重要ですが、それ以上に大切なのは人間どうしの理解、つまり言葉を越えた友情だと思うのです。

(5月28日／藤本圭太＝本州プログラムAグループ・サブリーダー)

順調なサバニ航海
寄港地で暖かい歓迎受ける

沖縄
プログラム

沖縄グループは、A・B班がイリオモテヤマネコ調査や遺跡調査などを実施。C班は、5月15日から黒潮文化をたどるサバニ航海を続けている。5月末には、3班ともハーリーに参加し、地元の青年たちとの国際親善と友好に努めた。


▲西表島のベースキャンプで

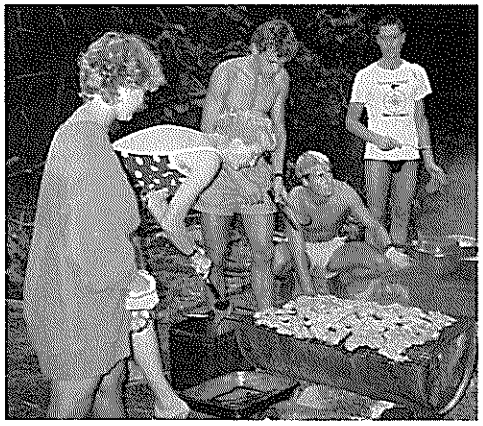
いよいよ本格外海へ

5月15日、サバニで西表島のベースキャンプを出発して以来、スケジュール通りに予定を消化し、いまは石垣島の最北端、平野の村に来ています。初日こそ強い向かい風とうねりに悩まされ、漕いで時速3kmほどしか出ませんでしたが、その後は海も穏やかで、漕いで時速5km、帆走すると時速9kmとなかなかのスピード、順調にきています。これまでは基本的には島伝いだったのですが、ここから本当の外海に出ていくわけで、水平線のかなたの島に向かって漕いでいくのは、また違った難しさもあると思います。

島々では青年会の方々と交流会、バレーボール大会などを通じて、親交を深めています。また山道の草刈りや海岸の清掃など奉仕活動もやらせていただいています。たった一晩の交流会の翌朝、5時に出発する僕らを見送りに来てくださったり、Tシャツをくださったりする青年会の方々のご好意には頭が下ります。僕らも精一杯の踊りや贈りもので応えてはいますが……。明日いよいよ多良間島へ向けて出発します。

(5月25日／渡辺道雄＝沖縄プログラム・サブリーダー)

▲バレーボールに興じるベンチャラー


▲さあ! 夕食の準備だ

▲サバニ船を漕ぐ訓練

▲帆走するサバニ船

日本フェイズ TOPICS

「足助は第2の故郷だ」

● 本州Aグループ ●

本州Aグループは愛知県足助町で町をあげての暖かい歓迎をうけました。町の人々の指導による伝統工芸や武道の体験、ホームステイなどを通じて、ベンチャラーの誰もが「足助は第2の故郷だ」といって別れを惜しんでいました。

▲町内に立てられた歓迎看板

中学生たちと交流会

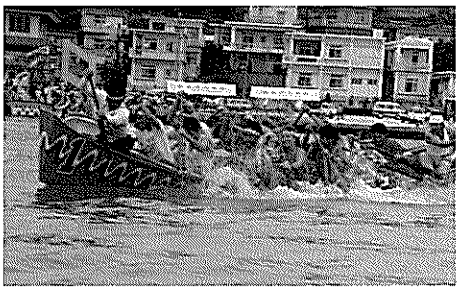
● 本州Bグループ ●

東海自然歩道の踏破をめざす本州Bグループは、沿道各地の人々との交流を図っていますが、5月22日岐阜県恵那市の中学生たち50人と英会話での交流の機会をもち、全員でゲームを行なうなど楽しい時を過ごしました。

白浜ハーリーで優勝

● 沖縄グループ ●

沖縄グループは5月31日沖縄各地で開催された豊漁祈願祭「ハーリー競漕」に参加。西表島白浜のハーリーに出場したB班は、みごと優勝。トロフィーを獲得しました。また、レベルの高い石垣ハーリーに出場したA班は、残念ながら入賞はできませんでした。サバニで伊良部島佐良浜に到着していたC班は、同島前里添でのハーリーに参加、地元青年会と一対一のレースを行ないました。直線ではほぼ互角でしたが、折り返しターンでの技術差のため、惜しくも敗れました。



▲伊良部島ハーリーのC班

スネル副議長羅臼訪問

● 北海道グループ ●

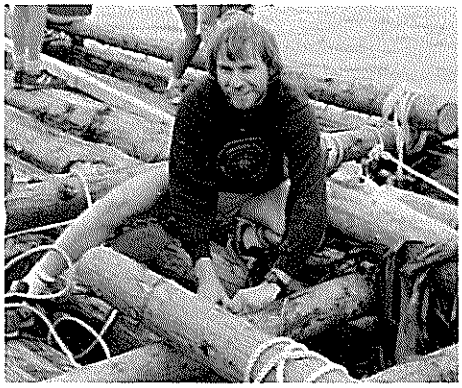
ジョン・ブラッシュフォード・スネルOR英国本部評議会副議長はトニー・ウォルトン日本フェイズ本部長とともに、5月下旬北海道フェイズの拠点、羅臼町でのプロジェクトを視察。さらに羅臼町役場を表敬訪問し、佐藤町長と懇談しました。

▲羅臼町長を表敬訪問したスネル氏(左から2人目)

愛すべきスタッフ ビル・ヤングの話

親愛なるスタッフ、ビル・ヤング。彼は現在28歳の小児科医である。身長175cmくらい、割と小柄でヒゲなどたくわえているが、人のよさそうな顔をしている。ロッククライミングをやっていたとかで、脚力には自信をもっており、東海自然歩道上ではいつも先発隊をかって出ていたがあまりにもペースが速過ぎるという理由で現在は外されている。

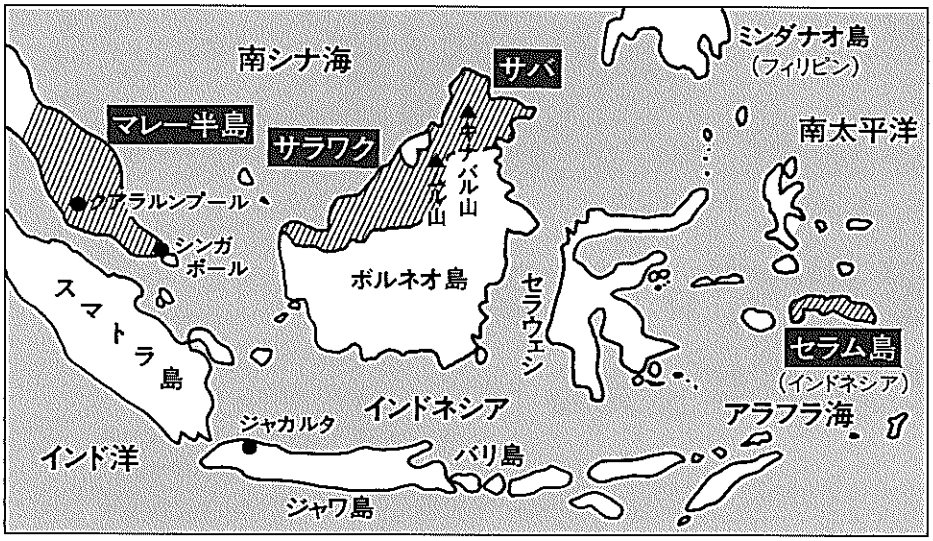
まるで子供のように好奇心が旺盛で、ポルノ映画の看板があれば、くいいるように見つめているし、スシ屋に入れば「この魚はまだ生きている！」と飛びあがって驚いたりしている。道で会ったカナダ人の観光客を見て「Oh!ガイジン!」などと本気で驚いているし、禅宗の寺で泊ったときなど、鐘の下で寝るといってきかなかった。彼はよくいなくなることがある。2～3日前にも山の上のキャンプサイトで全員食事を終えてみると、彼がいない。もうあたりはまっくら。皆あわてて捜しにいったのだが、彼は麓の道案内板の前で近所の人に道を聞いていた。帰ってきてもあまり悪びれた様子もなく、「今夜の夕食は何？」とか「迷っている途中に見えた街の夜景がきれいだった」などとノンキなことをいっているため、ベンチャラーたちから総スカンをくい、夜「アイム・ソーリー」と目に涙を浮かべている。



好物はカスタードでミーティングの途中でもカスタードの魅力には勝てないらしく、まめにスプーンを口に運んでいる。最初はこんなビルに驚いたり、腹を立てたり、じれたりしたのだが、いまはもうそれを通り越して愛すべき存在になってしまった。いま彼は横で「ORの歌？」の作詞作曲に没頭している。どうも彼は道を誤ったようだ。行く先々で彼が何をするか楽しみにしている今日このごろである。

(5月3日／飛沢正人＝本州プログラムAグループ・アシスタントプロデューサー)

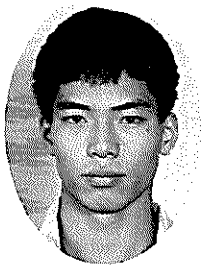
マレーシア 考古学や森林学調査 洞窟探険にも挑戦 インドネシア

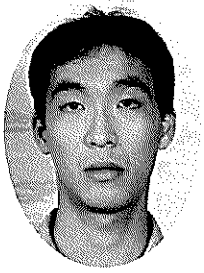


7月6日からのマレーシアフェイズ、7月10日からのインドネシアフェイズの活動内容は前号で概要をお知らせしましたが、詳しい計画が送られてきましたのでご紹介します。

マレーシアフェイズ

マレーシアの活動地は、マレイ半島およびボルネオ島のサバ、サラワクの3地域。マレーシア・ベンチャラーを含めて130名の参加で展開されます。日本からは、志邨建介君と飯島京太君のふたりが参加します。


志邨君


飯島君

マレー半島で密林探険

●ジャングルでの考古学調査

Sungei Tembeling地域のジャングルでマレーシアの大学と協力して考古学発掘調査。また、冒険的なジャングル探検に挑戦。

●プレハブ住宅の建設奉仕

Runchangの原住民のためのプレハブ住宅建設。ベンチャラー5人で20棟を建てる予定。休暇にはCini湖へ旅行もします。

●サンゴなどの海洋調査

Pulau Tinggiと周辺の島々でブイの設置やサンゴなど動植物の調査。ダイビングの国際ライセンスをもつベンチャラーが参加します。

サバでつり橋建設

●熱帯雨林での森林生態学

サバ南東の熱帯雨林で次の活動を展開します。

＊雨林の小道12km間を100m間隔でマーキング。

＊キャンプ避難所、つり橋建設。

＊キャンプ場＝山頂間約4kmの林道づくり。

＊サイの生態調査。

●農業・漁業施設の建設奉仕

●ダイビングによる人工暗礁づくり

●米国の眼科医チームの手伝い

●キナバル山(4,101m)の山道建設

サラワクでムル山登り

●ランビア国立公園の奉仕活動

熱帯雨林の歩道、観測タワー、森林公園、グランドなどの整備。

●ニアハ国立公園の建設作業

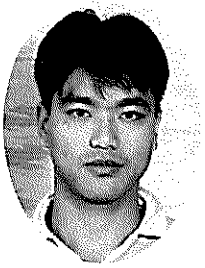
つり橋、歩道、防波堤、避難小屋づくりなど。

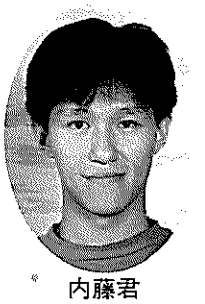
●ムル国立公園プロジェクト

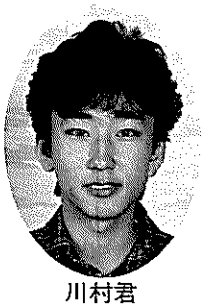
つり橋づくり、ムル山(2,371m)登頂、サブ・キャンプ地、観測デッキ建設、洞窟探検など。

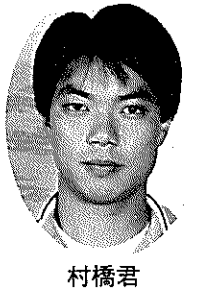
インドネシアフェイズ

インドネシアの活動地はセラム島で、インドネシアのベンチャラーを含めて総勢120名が参加します。日本からは、米山達郎君、内藤泰朗君、川村直人君、村橋靖之君、大塚聡子さん、中窪美和さんの6人が参加します。

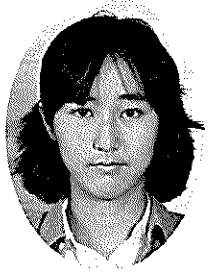

米山君


内藤君


川村君


村橋君

大塚さん


中窪さん

セラム島で科学や冒険

●マヌセラ国立公園での科学調査

シダ、ラン、高木などの植物相調査およびガ、カブトムシなど昆虫研究やヘビ、カエル、鳥類、コウモリ、ネズミなど動物相の観察、野ブタの保護活動。

●各種の地域奉仕活動

学校や医療施設の修繕、農業（ニワトリ・アヒル飼育、種子栽培）の手伝い、伝統工芸の体験、白内障手術のアシスタント、ヤシの砂糖づくり、魚塩漬けづくりなど。

●冒険的な活動

ケービング(洞窟探検)、岩壁登り、セイリング(帆走)、トレッキング(徒歩旅行)、シュノーケリング、伝統イカダによるイカダ下り。